

気球船



第 210 号

平成 19 年 6 月
文 部 科 学 省
初 等 中 等 教 育 局
国 際 教 育 課
編 集 ・ 発 行
初版発行昭和62年12月

海外子女教育総合HP: http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/main7_a2.htm

世界の窓

50周年を迎える ワシントン補習授業校

校長 平野 博典

沿革

1958年(昭和33年)。日本ではフラフープが爆発の人気となったこの年、テレビ契約が100万台を超え、家電ブームがピークとなりました。また、世界初のインスタントラーメンが誕生し、東京タワーが公開されたのもこの年でした。そんな高度経済成長の最中、ワシントン日本語学校が誕生しました。

ワシントン日本語学校はワシントン近郊に在住する小学校児童が日本語力を保持し、日本の生活習慣、文化等を理解、習得することを目的とし、ワシントン地区に在住する父母により設立されました。開校当時は学校といっても全児童数29名、教員2名という小規模補習クラスで、教室は日本大使館の一室を借りて、授業を行っていました。その後、中学部、高等部が新設され、大使館の教室も手狭になったため、ワシントン郊外の私立校の教室を借りて行われるようになりました。1984年(昭和59年)、ワシントンDCから学校法人の許可を受けた後、2001年(平成13年)幼稚部が新設され、現在では全校園児童生徒数約480名、学級数29(幼稚部2、小学部20、中学部5、高等部2)、教職員数40名(派遣教員3名を含む)となり、メリーランド・ヴァージニア両州の3カ所に分かれて授業が行われています。

各校舎の紹介

メリーランド州にはホーリークロス校(H校)とアカデミー校(A校)の2校舎があります。H校には幼稚部(1学級)と小学部1~3年(6学級)の園児児童が通っています。H校は、閑静な住宅街の中にある教会に併設された、比較的こぢんまりとした1階建ての校舎です。ここにはワシントン日本語学校の事務所もあります。A校は今年の9月よ

り移転したばかりの校舎で小学部4~6年(4学級)、中学部(5学級)、高等部(2学級)の児童生徒が通っています。H校に隣接し、広大な敷地の中にある大きな校舎がA校です。運動会はこのA校のグラウンドを使って行われます。

メリーランド州

● ホーリークロス校(H校)



【在籍】
幼稚部
小学校1~3年

● アカデミー校(A校)



【在籍】
小学部4~6年
中学部1~3年
高等部1~3年

ヴァージニア州にはセントルーカ校(S校)があります。この校舎も教会に併設されていて、体育館、遊具付きのグラウンドがある美しい校舎が印象的です。S校には幼稚部(1学級)、小学部1~6年(10学級)の園児児童が通っています。

ヴァージニア州

● セントルーク校(S校)



【在籍】
幼稚部
小学部1～6年

子どもたちの様子

ワシントン日本語学校の子どもたちはほとんどの子どもが月曜日から金曜日までは現地校に通い、土曜日は本校で6時間の授業を受けています。小学部1～3年では国語3時間、算数2時間そして合科(社会、理科、生活科《1・2年生のみ》、音楽、図工、体育を週ごとに行う)1時間の授業を受けています。小学部4～6年、中学部は国語、社会、算数(数学)、高等部は国語、数学小論文を2時間ずつ履修しています。これだけでも子どもたちはかなりの負担だと思いますが、何と言っても大変なのが、宿題です。現地校の宿題に加え、本校の1週間分の宿題で子どもたちはほとんど遊ぶ暇はないほどです。それでも子どもたちは元気いっぱいワシントン日本語学校に通っています。授業に向かう姿勢はたいへん熱心で、集中して先生の話の聞いたり課題に取り組んでいます。とは言えやはり午後の授業、特に5、6時間目の授業ともなると辛いものがあります。しかし、先生方は体を動かさず活動やグループワークなどを取り入れて、飽きさせない工夫を常にしています。その先生方の工夫と子どもたちの努力で土曜日の6時間を乗り切っています。子供たちの楽しみは何と言ってもお昼のランチタイムとお昼休みです。現地校ではもちろん英語づけなので、1週間のこの一日だけ日本人の子ども同士でおしゃべりをしたり、遊んだりしたりする時間はたいへん貴重です。それほど長い時間とは言えませんが、子どもたちはこの時間を目一杯楽しんでいます。

幼稚部は午前中の活動です。歌、言葉などを通して日本語への興味、関心を育て、言葉の完成を育みます。また伝承遊びや伝統行事を通して、日本の文化や風習に触れます。そして幼稚部で大切にしていることは、先生や友達の話聞き

ちんとした態度で聞くということです。子どもたちは一年間のこれらの活動を通じて、本当に大きく成長します。そして小学部に入学してからもこの幼稚部での経験が生かされます。

行事の紹介

年間を通じてたくさんの行事があるわけではありませんが、秋に行われる運動会は子どもたちが最も楽しみにしている行事です。運動会は幼稚部から高等部までが一堂に会して行われます。種目はかけっこ、大玉転がし、玉入れ、綱引き、騎馬戦、紅白リレーなど日本の伝統的な運動会そのものです。高等部を中心に応援団が結成され、みんないっしょに大いに盛り上がります。前の週に2時間しか練習の時間はありませんが、本番は非常にスムーズにできます。笑いあり、涙ありの素晴らしい運動会です。

幼稚部、小学部1年生は入園入学式があります。期待と不安でいっぱいの子どものこの式は新緑のようにたいへんまぶしく輝いています。また小学部6年、中学部3年、高等部2・3年の卒業式は厳かで感動的です。特に子どもたち一人ひとりが述べる思い出の言葉は保護者の方々、先生方の胸に響きます。そして週に一度しかないこの学校へ通い続けることが出来た満足感を子どもたちから感じ取ることが出来ます。

《運動会の様子》



幼稚部 親子遊技『アイアイ』



カバネコ



大玉ころかし



綱引き

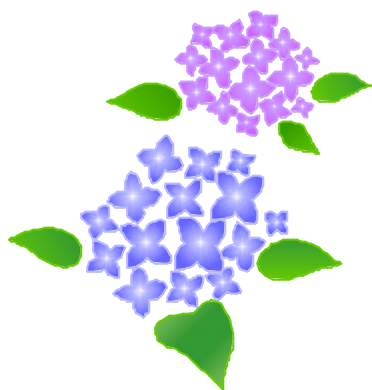
これからのワシントン日本語学校

アメリカに在住する期間の長さによって、子どもたちの日本語力にはどうしても差が生じてきます。それによって学習の進度、習得度など様々な面で指導が難しくなります。この問題を解決するために先生方はたいへん苦勞しています。音読の奨励、個の能力に応じた課題学習、グループ学習、作文指導などひじょうにきめ細かな指導が施されています。またそれに対する評価もたいへん

難しいです。そこで、テストだけではどうしてもはかれない学力を、今年度より評価規準表によって評価していくことになりました。

ニーズによって誕生した小さな学校が、現在では様々なバックグラウンドを抱えた子どもたちが通う大きな学校へと変化していきました。来年50周年を迎えます。この子どもたちが将来どのように生きていきたいか、それに対して我々が今すべきことは何かを常に考えて、より良い学校づくりを目指します。ワシントン日本語学校に通うこの子どもたちの笑顔を、いつまでも絶やさないように、そして、この学校に通ったことが良き思い出として子どもたち一人ひとりの胸に残るように、教職員一同、精一杯努力していききたいと思います。

(参考 ワシントン補習授業校HP
URL = <http://www.wjls.org/>)



トピック

10年ぶりに思うこと

海外子女教育専門官 坂本 淳一

4月の着任挨拶でも申し上げましたが、私は平成10年いっばいで国際教育課の前身である海外子女教育課から同じ局の財務課に異動しましたので、海外子女教育の現場に戻ってきたのは、約10年ぶりのこととなります。

この2か月間、その当時のことなども思い起こしながら、次々に舞い込んでくる大小様々な課題に接し、ずいぶん様変わりしたなと思う点や、あの頃とまったく変わっていないなと思う点など、改めて考えさせられるところがいくつかありましたので、今回は少し感想めいたことを交えて書かせていただきたいと思います。

戻ってきてからすでに自分でも何度かは口にしている「海外子女教育に対するニーズは、多様化・複雑化の一途をたどっており」というフレーズは、実は10年前にもほぼ同じ文脈、同じ意味合いで使っていたという記憶があります。

「我が国の主権の及ばない諸外国で、日本にいれば当然に受けられる義務教育と同等の教育が受けられるよう、文部科学省と外務省は、様々な施策を講じています」

これも定番フレーズの一つですが、10年前には、この基本的なスタンスにいかにも多くの付加価値を付け、「現場の教育ニーズ」に対応していくかということに、派遣教員の先生方、特に管理職の先生方はご苦労されていました。

たとえば、「国際性の涵養」や「文化交流の拠点としての情報発信」といったことは、海外にある以上何かしらの実践がなされていてしかるべき在外教育施設の特徴の1つです。これについては、政府としても「できる限り」の対応を求めてきましたし、現在も求めているところです。

実はこの「できる限り」というところがミソで、治安の問題や現地法制上の問題など、それぞれの国や地域が抱える一定の制約の中で、日本では当たり前前にできるような「相互交流」を実践するのに、いかにも多くの事前準備とそれに伴う労力、財政負担などが必要か、そうした実践上の悪戦苦闘の数々が、「できる限り」という努力目標の中に紛れて見えにくくなっています。

我々はある種の理想的なあり方を示す旗振り役ではあっても、多様な実情を抱える地域の教育実践一つ一つにまで細かい方向性を示す立場にはありません。

そんな中で、帰国された先生方からお聞きする「苦労話」には、切実でありながらあっけらかんとした、プロの迫力といったものを感じさせるお話がたくさんあり、そういう「生々しい実体験」を少しでも多く聞かせていただくことを期待しながら、「できる限り」がんばっていただきたいといつも思っています。

*

*

海外子女教育は一つの過渡期を迎えているように思います。これもひょっとするとすでにあちこちで使い古された言い回しなのかもしれませんが、久しぶりにこの席に着いてみて改めて実感しています。

爆発的に児童生徒数が増えている地域もあれば、それこそ10年前から20人前後で推移し、今後も大幅な増加が見込めないという地域もあります

基本的に保護者からの授業料や在留邦人による寄附など、現地の自助努力を前提に設立されている在外教育施設にとって、児童生徒数の大幅な減少は、運営そのものに直結する非常に大きな問題です。

そもそも日本人学校新設の条件が「30名以上の児童生徒の在籍」と「将来の増加が見込めること」となっているのは、財政の面で、将来にわたって安定的な運営が期待できるというところからきています。

こうしたことが維持できなくなれば、教育環境の整備は自ずと厳しくなり、その分、現にいるスタッフにかかる負担は大きくなります。本来、教育の現場でその持てる力を発揮していただきたい派遣教員の先生方が、学校運営の雑務に追われ、子どもと向き合う時間が少なくなる、というのは決して望ましい状況とは言えません。

ただその一方で、最近の言葉で言えば「ステークホルダー」たる企業関係者、保護者等の在留邦人の方々が、設置運営の当事者でもある在外教育施設の場合、現場のニーズやそれに基づく経営方針を踏まえた教育実践が要求されるのはある意味当然のことであり、国内の教育現場より以

上に、「学校」に対する期待や要望がダイレクトに派遣教員に向けられるのも、やむを得ないことなのかもしれません。

それだけに、我々先生方を送り出す立場としては、そういう厳しい環境の中で「長期研修」を行うことの意義の大きさを改めて実感していただきたいと思っていますし、もちろん、学校運営委員会、企業関係者の方々、保護者の方々をはじめ、多くの海外子女教育に携わる関係者の方々、とりわけ国内の都道府県教育委員会等派遣元のご担当の方々に、派遣教員の先生方が置かれている状況を十分理解していただき、引き続きご協力いただけるよう、情報発信に努めていきたいと思っています。



事務連絡

長期休業期間中の安全対策について

在外教育施設指導係 臼田 亜紀子
世界各地において、国際情勢などに起因して、テロや暴動などが発生しております。在外教育施設のある地域も例外ではありません。

4月には、パラグアイの首都アスンシオンとシウダ・デル・エステ市を結ぶ国道において、日本人2人が誘拐される事件が発生しました。

5月には、ダッカ (バングラデシュ) の鉄道駅にて連続爆弾テロが発生し、カラチ (パキスタン) 及びカラカス (ベネズエラ) では抗議デモが発生しています。

また、6月にはケニアの首都ナイロビの中心部で、自爆テロと思われる大きな爆発があるなど、緊張状態が続いています。

このようなテロや暴動などの他、大雨による洪水など天災における被害も起こっています。

在外教育施設における安全対策については、当該地域の事情に応じて、在外公館や現地邦人社会等と連携をとりつつ、日頃から必要な対策を講じることが肝要です。

6月下旬から長期休業期間に入る在外教育施設も多くありますので、児童生徒のみならず、派遣教員及びその家族についても任地を離れる機会が多くなることが考えられます。

長期休業期間に入る前に、この期間中の緊急連絡体制の確認など、安全対策について総点検し、安全の確保について格別のご配慮をお願いします。

緊急事態が発生した場合は、在外公館、現地警察・消防当局等に連絡するとともに、国際教育課にも必ずご連絡ください。夜間及び休日の場合は、緊急連絡受付票の連絡先にもご連絡ください。



長期休業期間中の教職員動静表の提出について

教職員給与係 笠原 政行

長期休業期間中における派遣教員の動静把握のため、各在外教育施設の校長は「任国外旅行実施計画一覧表」とともに、当該期間の教職員動静表を休業実施前に提出するようお願いいたします。任国外旅行の実施予定がない場合は教職員動静表のみを提出してください(書式は「派遣教員の手引」64、65頁を参考のこと)。

なお、休業開始直前に提出する場合は、先に当課あてに FAX 送信いただくようお願いいたします。

加えて、長期休業期間中の在勤地残留人数(3分の1規定)についても例年通りご留意願います(詳しくは「派遣教員の手引」61~65頁を参照)。

平成19年度在外教育施設教員派遣にかかるスケジュールについてお知らせします

教職員派遣係 西尾 佐枝子

平成19年度の在外教育施設への教員派遣にかかるスケジュールについてお知らせいたします。

なお、本スケジュールについては諸般の事情により変更する可能性がありますことをご了承願います。

【選考試験について】

(管理職)(東京会場のみ、三田共用会議所)

平成19年7月19日(木)~24日(金)

教諭]

(東京会場、三田共用会議所)

7月25日(水)~27日(金)

7月30日(月)~31日(火)

8月6日(月)~7日(火)

(大阪会場、大阪ガーデンパレス)

8月21日(火)~23日(木)

(福岡会場、KKRホテル博多)

8月29日(火)~30日(水)

【派遣先の決定について】

【管理職】

平成19年11月下旬頃

【教諭】

平成19年12月上旬(登録者)

同 下旬(即派遣者)

【各種研修会】

【登録者研修会】

平成19年8月3日(金)

於 東京国際交流館(東京都)

【内定者等研修会】

平成20年1月28日(月)～2月1日(金)

於 国立オリンピック記念青少年総合センター

【管理職研修会】

平成20年2月9日(土)～2月15日(金)

於 独立行政法人学術総合センター

【配偶者研修会】

平成20年2月2日(土)

於 国立オリンピック記念青少年総合センター

【辞令交付式】

【管理職】

平成20年3月12日(水)

於 ;KKR ホテル東京(予定)

【教諭】

平成20年4月3日(木)

於 ;独 学術総合センター(予定)

「帰国生のための学校説明会
・相談会」のご案内

海外子女教育振興財団

海外子女教育振興財団では、今年も東京・大阪・名古屋にて恒例の「帰国生のための学校説明会・相談会」を開催いたします。

各会場では、国内の小学校・中学校・中等教育学校・高等学校・短大・大学までの主な帰国生受入校の関係者を招き、すでに日本に帰国した、または海外から一時帰国している子どもたち(小学生～高校生段階)を対象とした、帰国生の進学に関するきめ細かな説明や相談に応じます。

入場は無料、もちろん保護者だけでなく、子ど

もの同伴も可能です。

特に、在外教育施設の先生方におかれましては、この7月に一時帰国または帰国される予定の方にお伝えいただくほか、進路指導担当の先生方も情報収集の機会として役立てていただければと存じます。

東京会場

2007年7月31日(火) 13:00～16:30まで

場所: 国立オリンピック記念青少年総合センター

(東京都渋谷区代々木神園町3-1)

最寄駅: 東京メトロ千代田線「代々木公園」駅又は小田急線「参宮橋」駅から徒歩8分

12:30 受付開始

13:00 学校別ブースに分かれての個別説明・相談

16:30 終了

大阪会場

2007年7月25日(水) 13:30～16:30まで

場所: 大阪YMCAホール(大阪府大阪市西区土佐堀1-5 大阪YMCA会館2階)

最寄駅: 地下鉄四つ橋線「肥後橋」駅又は地下鉄御堂筋線「淀屋橋」駅徒歩7～13分

13:00 受付開始

13:30 財団教育相談員による講話『帰国生受け入れの概要について』

14:00 学校別ブースに分かれての個別説明・相談

16:30 終了

名古屋会場

2007年7月26日(木) 13:30～16:30まで

場所: 名古屋国際センター(名古屋市中村区那古野)

最寄駅: 地下鉄桜通線「国際センター」駅下車又はJR・名鉄・近鉄・地下鉄「名古屋」駅から徒歩7分

13:00 受付開始

13:30 愛知県教育委員会による講話『愛知県立高等学校における帰国生受け入れの概要について』

14:00 学校別ブースに分かれての個別説明・相談

16:30 終了

各会場の参加校につきましては財団ホームページをご参照ください。
<http://www.joes.or.jp/>

また、先生方のご参加の場合も一般来場者と同様の申込方法となりますので、ホームページにてご確認ください。

(財)海外子女教育振興財団 情報サービスチーム
E-mail sanka@joes.or.jp
TEL +81-3-4330-1349
FAX +81-3-4330-1355



国際教育課「気球船」編集部
本誌へのご意見、ご感想をお待ちしています。下記までご連絡ください。
連絡先：E-mail:kokukyo@mext.go.jp
こちらも随時募集中です。
投稿記事
(原稿料は出ません。ご了承ください。)
新規配信配信依頼

編集後記

以前、派遣を終えて帰国された校長が、海外子女教育、帰国・外国人児童生徒教育に関する総合HP(通称CLARINET)を知らず、非常にショックを受けました。

このCLARINETは、平成9年から運用されているのですが.....

もし、未だにアクセスしたことがない方がいらっしゃったら、各在外教育施設の連絡先やHPのリンクも貼っているので、確認がてら訪問してみてください(CLARINETのリンクは、気球船タイトルに貼ってあります。)

(N)

～ 6月号の内容 ～

世界の窓 -----1
50周年を迎えるワシントン補習授業校 ---1
校長 平野 博典

トピック -----3
10年ぶりに思うこと -----3
海外子女教育専門官 坂本 淳一

事務連絡 -----5
長期休業期間中の安全対策について ----5
在外教育施設指導係 白田 亜紀子

長期休業期間中の教職員動静表
の提出について -----5
教職員給与係 笠原 政行

平成19年度在外教育施設教員
派遣にかかるスケジュール
についてお知らせします -----6
教職員派遣係 西尾 佐枝子

「帰国生のための学校説明会・
相談会」のご案内 -----7
海外子女教育振興財団

